

西伊豆の水産物をフェリーで静岡市へ

西伊豆地域には、仁科のヤリイカや土肥さらし天草といった魅力的な水産物が多々ありますが、静岡県内における流通・消費量は多くありません。そこで伊豆漁協西伊豆統括支所（以下、漁協）は、「駿河湾フェリー」を利用し、西伊豆産の水産物を静岡市へ送る、駿河湾横断輸送試験を実施しました。

平成29年12月21日、漁協は、同漁協所属の定置漁業者「塩徳丸」にトラックによる輸送を依頼し、輸送試験を実施しました。出荷物は特産品である「仁科のヤリイカ」、定置網漁獲物（カワハギ、アオリイカ、メジナ等）で、いずれも「活魚」の状態でした。午前8時30分に漁協を出発、午前9時20分土肥港発のフェリーに乗船し、午前10時25分に清水港に到着、その後、出荷先である静岡市中央卸売市場に着いたのは午前11時でした。漁協出発から市場到着まで約2時間半を要しましたが、生残率はほぼ100%で、無事、市場まで輸送することができました。

今回の輸送試験では、定置網漁獲物の単価は既存販路と同程度かやや下回る魚種もありましたが、ヤリイカの単価は既存販路より高く、漁協は静岡市出荷の手応えを感じたようでした。一方、フェリーを利用すれば時間短縮、運転時の肉体的負担軽減等のメリットはあるものの、出荷額に対するフェリーのコストが高すぎるといった課題も浮き彫りになりました。

漁協は、今後も同様の輸送試験を実施し、輸送コスト、売上データ等を蓄積するとともに、陸路輸送や飲食店向けの小口輸送等も実施し、静岡市は新規販路となり得るのか、また、輸送方法はフェリーが適当なのか、といった点について検証を進める予定です。

（鈴木勇己）



写真（上）フェリー移動中
（下）市場での荷下ろし